

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成22年 3月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	( 評価機関で記入 ) 3471504542
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	福山ケアセンターそよ風
所在地	広島県福山市松永町3丁目21-70 (電話) 084 - 930-4188

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田4丁目46-9
訪問調査日	平成22年3月5日

## 【情報提供票より】(22年 2月16日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 15人, 非常勤 人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	3階建ての	3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有1年	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	1,400 円		

### (4) 利用者の概要( 2月16日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	0名	要介護2	8名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	61歳	最高	99歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小川胃腸科内科産婦人科医院・医療法人社団沼南病院・キタカ歯科医
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

促成栽培のビニールハウスが残る住宅街に位置しており、近隣にはスーパーやドラッグストア、消防署があり散歩や買物に出かけ地域の方々と交流を図っている。事業所は1階がデイサービス2階はショートステイとなっていて3階がグループホームである。各事業所は行事などで交流があり利用者は、顔なじみになっている。各ホームの理念である華ユニット「皆寄り添いゆとりを持って接し家庭的で笑顔の耐えない日々が暮らせるよう支援します」桃ユニット「私達は、居心地の良い場所を作り楽しく仲良く暮らせるよう提供します」を管理者、職員全員で常に認識し、高い向上心を持ち利用者に対して接している。又各ユニットごとに毎年目標を掲げている。利用者に活気があり、表情豊かに居心地の良い生活を送れるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	各ユニットでの理念作りを改善課題に挙げられていましたが、両ユニットとも理念を作成されホーム内に掲示し、朝礼時に職員全員で唱和し理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	それぞれのユニット毎で管理者と職員が評価に積極的に取り組み、自己評価の意義や目的を全職員に周知をはかり、自己評価による気付きを基にケアの質の向上に努めている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、地域包括支援センター・民生委員・自治会長・福祉を高める会・消防署・管理者・職員・家族が出席し、家族からの意見や要望等活発な意見を交換している。またホームの理解を頂く為にホームの日常生活や活動状況等の説明を行いホームへの理解をいただいている。検討事項や懸案事項について課題解決に向け継続検討が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議においてご家族の意見や要望が表出できるように配慮されたり、ホーム便り「そよ風」を毎月発行し家族にホーム内の活動状況や様子を報告をし不安を取り除くよう努力している。家族の訪問時や電話などできめ細かく連絡・聴取を行っている。状況報告や意見交流、会話をし問題解決に取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して、地域のボランティアの訪問で踊りの披露等交流がある。地域のカラオケ店に出かけ職員共々歌を歌ったり、喫茶店にお茶を飲みに行ったり、スーパーやドラッグストア・大型ショッピングセンターへ買物に出かけたり地域の方々と交流を深めている。夏祭りを法人全体で行い家族や地域の方々の参加を求め交流に努めている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のグループホームとして壁面に、華では「皆寄り添いゆとりをもって接し家庭的で笑顔の耐えない日々が暮らせるよう支援します」桃では「私達は、居心地の良い場所を作り楽しく仲良く暮らせるよう提供します」のホーム独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は壁面に掲示しており、管理者と職員は全体会議や月3回のミーティングの中で唱和し理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入するなど地域の一員としてかわりを持っていく。地域の方のボランティアによる踊りや子供さんたちの歌の披露等交流している。事業所では夏祭りをいり地域の方々に参加して頂くように案内を配っている。		施設で行う夏祭りやイベントに地域やご近所の方々に気軽に参加して頂けるようにご案内を配布し益々の交流ができるように期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義について積極的に取り組まれ、ミーティング時や職員会議で全職員に周知し、更にユニット毎に話し合いをしてケアの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており地域包括支援センター・民生委員・自治会長・福祉を高める会・消防署・管理者・職員が出席し、家族からの意見や要望等活発な意見交換会とホームの理解を頂く為に日常生活や活動状況の説明が行われている。又検討事項や懸案事項について課題解決に向け継続検討が行われている。		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者の方に出席して頂きホームのサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族訪問時に利用者の活動状況や金銭出納帳を明示し報告を行っている。ホーム便り「そよ風」を発行しホーム内の行事や活動状況を家族に送付している。また、利用者個々の写真アルバムを作成し、日々様子を訪問時に見て頂いている。また急を要する事に関しては電話連絡により様子を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱や記載用紙を設置し、意見や苦情等があれば記載できるようにしている。また来訪時や運営推進会議の席上で、ご家族の意見・要望等の表出場面作りに配慮されておりご家族との良い関係作りを構築している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は少なく両ユニットでレクレーションや行事を合同で行い利用者顔馴染みの関係作りをしている。またユニット間は自由に行き来出来、職員と利用者は顔馴染みになっていて移動や離職での利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は参加の希望や必要性に応じて勤務調整し、法人内研修や外部研修に参加しサービスの質の向上に努めている。また、研修費用は施設が負担している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内各同事業所との交流は行われているが地域での交流はしていない。		地域包括支援センターの方や居宅介護支援センターの職員の方との話し合いや音頭を取って頂き、地域の同業者との交流の今後の取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新規の利用者が早くホームに馴染めるように、ホーム見学や利用者宅を何度か訪問し本人本位を大切にし事前の聞き取りや面談・相談を重ね、円滑なサービス開始ができるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から昔の習慣や、季節ごとの料理や掃除の仕方野菜作りなど教えて頂いている。日々の生活は利用者の意向が尊重された生活となっている。また利用者に寄り添い声かけや体調確認をしたり、表情より訴えを察知して共に支え合える関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者への日々の関わりの中、言葉、行動、表情より利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、時間をかけて寄り添い、思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画担当が本人や家族の思いや意向を聞き、管理者と担当職員が原案を作り、職員カンファレンスで話し合い介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しを6ヶ月に1回行っている。急変時・必要時は随時見直しを行っている。毎月の全体会議、毎朝のケア会議で職員から気になることなど意見を聞き取り、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のサービスやショートステイと行事・イベント・レクレーションを合同で行い交流している。花見や外出には、サービスの送迎車を利用して出かけている。家族の状況に応じて受診、通院支援等支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診があり、利用者本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診支援をしている。いつでも対応していただける協力医院があり適切な医療を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りはまだ経験がありませんが、看取りや重度化に対する指針作りを利用者の状況に応じて家族と、かかりつけ医、職員と話し合いながら意向を確認し態勢作りをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとりひとりの誇りやプライバシーを損ねないように全職員が言葉がけ等に気をつけ個人の尊厳が損なわれることの無い様に支援している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるものの、食事時間や入浴時間を調整し、利用者一人ひとりの体調や気分等に配慮しつつ利用者のペースに合わせた個別的な支援が行われている。		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の皮むきや刻みなど利用者一人ひとりの力を活かしながら出来ることはして頂いている。季節感のある料理を作ったり誕生日等の行事には、特別料理を作っている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで食事介助や見守り、会話を楽しみながら一緒に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能であり利用者一人ひとりの希望に沿って支援している。嫌いな人には声掛けの工夫で入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者本人や家族から聞いた生活歴や趣味などの情報を基に毎日の暮らしの中で一人ひとり出来ることを探し生きがいや喜びに繋がる支援をしている。近隣の喫茶店やカラオケ店に行ったり野菜作りをして気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態や季節等を考慮し散歩・近隣のスーパーへの買物・喫茶店等外出支援が行われている。利用者全員が外出されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない暮らしの大切さを認識しておられ、訪問当日玄関や居室・ユニット間の鍵錠はしていない。利用者は自由にユニット間を行き来していた。1階のデイサービスにも自由にいく事ができるので1階の玄関は、デイ利用者もおられるので鍵錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、隣接の消防署の協力を得て、通報・避難・消火訓練を年2回実施している。利用者も一緒に参加している。		

福山ケアセンターそよ風

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に利用者の身体状況を把握し、栄養士によって栄養バランスに配慮された献立が立てられ、形状に配慮し提供・支援している。		1日の水分量を記録把握するよう期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは住宅街、山、畑等が眺められ、室内で利用者は思い思いにゆったりと過ごしている。季節の生け花が飾られ、壁には習字やちぎり絵行事の写真、節分の様子、ひな祭り等飾られ生活感や季節感を採り入れ居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の持ち込まれたタンスや家族写真・趣味の花・人形等好みに合わせて配置されて、それぞれが使いがっのの良い居室になっている。		